

六十五

×

d 8



174

導案秘録

小

11



導引私録卷之中目次

眉部 眼部

耳部 鼻部

口部 舌部

喉嚨部 咽部

胸部 肺部

心部 膈膜部

脾胃部

肝部 膽部

醫藥寮庫

490, 9  
Do-2  
2

No. 1361



富士川文庫  
1006

腎部

膀胱部

睪部

胃部

肝部

脾部

肺部

胆部

心部

大腸部

腎部

小腸部

脾部

胃部

肝部

胆部

肺部

大腸部

心部

小腸部

腎部

胃部



導竅私録卷之中

備後野小出龍君德著

男 信近義

播磨森川孚信卿

美作山田哲俊碩

眉部

兩眉毛ハ。兩眼ノ上一寸ハカリニ生ス。

左右相對シテ其位正シ。ヨク人ノ知リ

タルトコ口也。古人ノ解體書ヲ閱ニ未

曾テ兩眉ノ掌トル所ヲ言ハズ。偶新書ノ説アリ。曰眉者爲眼。牆主防。從額下之。汗使眼莫受傷矣。龍竊二謂フ。眼耳口鼻各其任アリ。眉獨り無シ。以此強テ眉ハ眼ノ牆トナルノ任ヲ設テ以テ此レガ説ヲ爲スナラン。可ナルガ如シト雖氏未タ其據トコロヲ知ラズ。春秋元命包天有攝提。人有兩眉。説文曰。星者萬物之精矣。以此觀之。眉之爲德ヤ尊シ。何ゾ夕

と垣墻防禦之具ノ如クナラシ。其掌ルトコ口以テ攷フヘシ。鄭衆ヤ其鼻ニ鼻ノ

眼部

兩眼ハ日月ノ如シ。上ニ位シテ萬物ヲ照ス。口ヲ掌ル。其質ハ。之ヲ膜ニテ。其膜凡六重アリ。スベテ眼中筋膜多シ。其間一夥シク脂肪アリ。又脂肪少ナキ者ハ目陷没ス。脂肪過多ナル者ハ目突起ス。眼球ハ其色或ハ黒ク。或ハ碧。或ハ淡。或

ハ濃ナルアリ。一様ナラズ。眼ノ膜ハ圓  
ニシテ光澤アリ。多クハ目ノ突出ス  
眼ノ筋。其數五條。一神經。直ニ眼ノ後口  
ニアリ。天神通之。其餘四條ハ眼ノ上下  
左右ヨリ後口ニ曲リ。纏<sup>マ</sup>眼<sup>ニ</sup>此レ所以使  
眼開合運轉ノモノナラン。又  
眼<sup>カ</sup>睚<sup>ラ</sup>眼<sup>ノ</sup>背<sup>ノ</sup>裏面ナル。瞼ノ間ニ。柔孔アリ。淚  
タ此ヨリ出ツ。膜脈下テ鼻ニ通ス  
ルモノアリ。常ニ淚液皆鼻ニ下流シテ

眼中ニ溜ルヲ大ニ。悲泣甚シキ時<sup>ハ</sup>眼  
鼻共ニ淚涕如流。眼鼻モ咽モ其孔通<sup>ル</sup>  
ル故ナリ。重<sup>ク</sup>シテ<sup>ハ</sup>眼<sup>ノ</sup>包<sup>ニ</sup>止<sup>ル</sup>  
眼膜ノ表膜ハ白シテ眼ヲ包<sup>ス</sup>止<sup>ル</sup>  
瞼ニ属ス。此膜津液ヲ含<sup>ム</sup>痛痒寒熱ヲ  
知<sup>ル</sup>。若<sup>シ</sup>微塵ノ毛<sup>ノ</sup>入<sup>ル</sup>眼<sup>中</sup>ニ入<sup>ル</sup>ハ  
痛ニ堪ズ。又常ニ鍼サ<sup>レ</sup>テ試<sup>ス</sup>ルニ表膜  
ハ痛<sup>ム</sup>。強膜ハ不痛。底膜ニ至<sup>ル</sup>ハ又痛  
ム。底膜モ亦多ク血液ヲ含蓄スルナリ

故ニ痛痒ヲ覺ラナラズ。合蓋ハ其ノ  
次ノ膜モ白フシテ、血液筋脈多シ。表膜  
ノ裏面ニ屬テ、此膜ト表膜トニ襲ハル如  
シ。各、其中央ニ圓キ孔アリ。是即黒球ナ  
リ。凡ソ眼疾寒熱腫痛スルモノ多ク、此  
ニ膜ニ係ル。又其痛ミ底膜ニ徹スル力  
如キハ病重シト知ヘシ。此膜ト次ノ強  
膜ノ間ノ血液腐敗シテ、膿トナレハ、明  
ヲ障フ。是ヲ膿内障ト云。眼醫以鍼強膜

ニ附着スルトコロノ、膿ヲ刮除スレハ、  
自ラ明出ツ。又底膜ノ血液腐敗シテ、明  
ヲ失スルモノハ、眼科モ神手ニアラサ  
レハ、治スルコト能ハズ。亦氣内障ト名ツ  
クルモノアリ。是ハ眼ノ真後ヨリ傳ル  
トコロノ、所謂瞳神經中之血液腐敗ス  
ル故ニ、外鏡ハ明瓏トシテ有ナガラ、視  
レトモ見ヘス。是最モ難治トス。若コレ  
ヲ治スルノ術ヲ得ル人アラハ、真ノ神

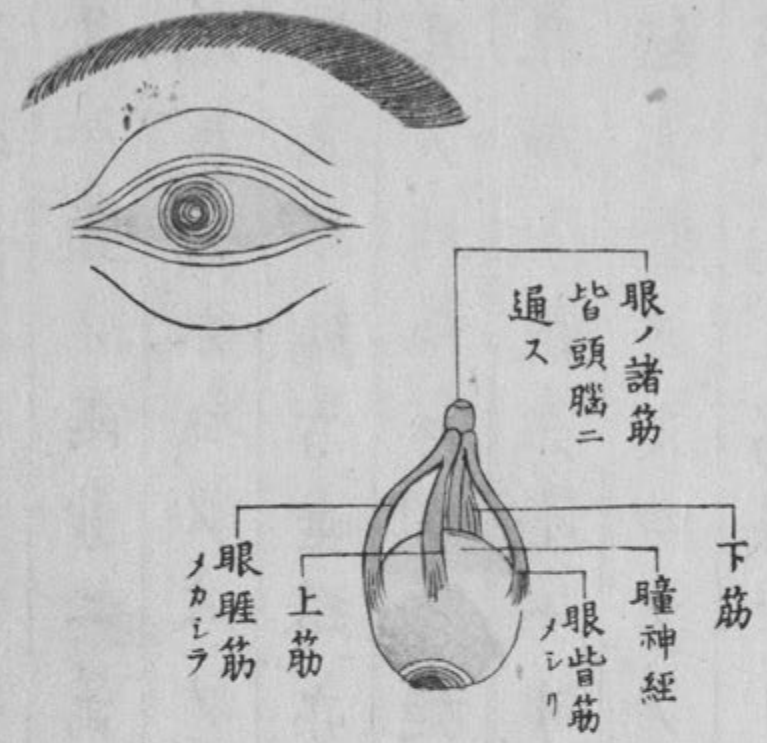
手ト謂フヘシ。  
 其次、厚強ノ膜、淡白ニシテ全球ヲ周ク  
 圍ム、其前面黒球ニ中ル處、恃ニ透明ナ  
 リ。此處ヨリ、眼底スルトラル透見ス。  
 其次ノ膜、薄シテ軟ナリ。如暗如液ニメ。  
 其色暗黒也。此内ニ黒液充チ、纖維ノ血  
 脈湊會シテ、内ニ瞳子ヲ藏ム。瞳子ハ潔  
 白堅硬ナル小丸子ナリ。周邊ニ無數ノ  
 筋脈蔓延シテ、瞳子ノ縁ニ属ス。其筋脈

膜ノ狀チ、青、黄、赤、白、纖細強弱、難可悉觀。  
 但シ其五筋脈ノ如キハ、其大略ヲ攷ヘ  
 察スヘシ。  
字書曰骨之精爲瞳子、属腎、筋之精爲黑眼、  
属肝、果シテ然ルヤ、否ヤヲ知ラス。

其次亦細絡膜ニテ、色白ク網ノ如シ。其  
 膜甚軟ニメ薄ク、裡面ヲ被フノ膜ナリ。  
 以上六膜ノ間ニ、各血液ヲ含ム。眼中以  
 此常ニ潤澤ヲ得ルナラズ。  
 眼中ノ諸液ヲ視ルニ、其所在ニ由テ形  
 色異ナリ。西洋家視テ以テ其名ヲ設ケ

其理ヲ窮メ。之カ辨別論說ヲナス。明ニ  
 ヲ且盡セリト謂フヘシ。然レ鮮體之說  
 ハ。大抵執死物以テ類ヲ推活體モノノユヘ。一  
 概ニ信用シ難キヲモアルヤウナリ。讀  
 者。心得アルベキヲナリ。斯レハ。數ナリ  
 睫ハ上下ノ瞼ニ縁テ生ス。眼ノ爲ニ塵  
 埃ヲ防クヲ掌ルト見ヘタリ

眼ノ諸筋皆頭腦ニ通ス



- 表膜ハ白色ニシテ津液ヲ含ミ上下瞼ニ属ス
- 次ノ膜モ色白ク血液ヲ含ム表膜トニ襲ノ如クニ見ユ
- 三重メ厚強ノ膜淡白色ニシテ前面眸子ニアタル處白膜覆ハズ透明ナリ
- 四重メノ膜ハ薄ク軟ニシテ黒液ヲ含ミ内ニ瞳子ヲ安ス
- 五重メハ細絡脉集リテ網ノ如キ膜ナリ血液ヲ含ム



耳部

耳ハ頭ノ兩旁ニ属テ、其形如木菌ニキノクサシ。又似ニタリ蝸牛穀ニコ。亦ヨク人ノ知リタル一ナリ。外輪ノ下端有垂珠ニシズメ。亦珠ナキモノモアリ。耳ノ孔ハ、口闊ク、旋回曲下スルニ隨テ孔漸ク狭ク小ナリ。底ニ膜アリ、形如鼓。經絡纏之。又四ツノ骨アリ、短長圓屈、其形不同。各筋脈アリテ、其四骨ヲ繫縈ス。盖レ耳ハ、音韻ヲ聽フヲ掌サトル。其之

ヲ聽所以ノ理、知ント欲トイヘ氏。人力ノ能ク及ブ所ニアラス。

鼻部

鼻ハ一身九穴ノ部内ニシテ、面ノ中央ニアリ。其根接上腭ニ孔アリ。此孔咽喉ニ貫ク。即チ呼吸ノ通穴ナリ。鼻ノ質ハ、軟骨集テ、鼻ノ形ヲ成ス。其裡面ノ骨、數多アリ。其高低空洞ノ處ニ筋脈、粘膜、等多シ。盖レ鼻孔ハ、恒ニ開閉セ

ズ。ソノ内ニ軟毛生ス。蓋シ此ヲ以テ塵  
 埃及ヒ小虫等ノ飛入シトスルノ患ヲ  
 防クナラレ。骨<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>  
 鼻ハ音聲ヲ朗ニシ。言語ヲ調へ。嗅<sup>カキ</sup>香<sup>ニ</sup>鼻。  
 漏<sup>ス</sup>涕<sup>ニ</sup>若<sup>シ</sup>鼻ニ些<sup>ニ</sup>テモ傷<sup>ヤ</sup>アレハ。音聲  
 言語トモニ清朗ナラズ。是ヲ以テ之ヲ  
 考<sup>レ</sup>ハ。鼻之爲<sup>レ</sup>用<sup>ハ</sup>略<sup>カ</sup>可知<sup>ク</sup>ノ<sup>ニ</sup>。

口部

口ハ諸ノ食飲ヲ入レ。呼吸ヲ出納スル

ノ門戸ナリ。上腭下腭アリテ以テ口ノ  
 形ヲ成ス。覆<sup>レ</sup>之<sup>モ</sup>ノ。上下唇ナリ。上下唇  
 ハ。口ニ在テ。表門ノ戸ノ如シ。能ク開闔  
 ヲ爲シ。言語ヲ調へ。飲食ヲ受ケ。音聲ヲ  
 分<sup>テ</sup>上下ノ齒<sup>ノ</sup>銀<sup>ヲ</sup>覆<sup>ヒ</sup>藏<sup>ス</sup>。口<sup>ノ</sup>掌<sup>サ</sup>ト  
 ル。上下<sup>ノ</sup>銀<sup>ハ</sup>。牙齒ノ生スル地ナリ。共ニ  
 剛肉ニシテ強ク。薄膜<sup>ヲ</sup>裏<sup>ク</sup>之<sup>。齒</sup>根堅固ナ  
 リ。齒根及ヒ上腭ノ裡面。又舌下<sup>ニ</sup>細<sup>シ</sup>皺<sup>ノ</sup>  
 間ニ纖孔アリ。コレヨリ滲<sup>ル</sup>出<sup>ル</sup>者ヲ津<sup>液</sup>

ト云。齒ハ根骨ヨリ生レ。上十六枚。下十六  
 枚。合而三十二枚ナリ。堅剛ニシテ色白  
 久。蠟石ノ如シ。種々ノ食物ヲ咀嚼シテ。  
 能ク五味ヲ辨シ。音韻ヲ調フ。口ヲ掌サ  
 トル。牙齒凡三十二枚ト曰クイヘ氏。人  
 ニ依テ多少アリ。皆人ノ知ル所ナリ。  
 舌部。舌ハ赤肉ニシテ。下腭ニ屬テ。舌頭狭ク

舌本廣シ。根ハ接喉管柔カニシテ。能ク  
 動キ以テ調言語知五味。理冷煖。運飲食。  
 吐津唾。旁ラ音聲ヲ分ツ。口ヲ掌トル。計  
 舌本所著ノ筋。胸部ヨリ續キ來ル。此筋  
 即チ。牽舌而卷舒。上下セシムルナルベ  
 シ。其他舌之表裏。筋膜多シ。凡五臟六府。  
 虛實寒熱。人證候。舌ヲ最トス。覃ク考ヘ  
 察スヘキナリ。喉嚨部。喉嚨部ハ舌ノ根ニ  
 接シ。其土ニシテ

喉嚨ハ、呼吸ノ氣ノ通路ナリ。其上ニ舌根ニ接キ、食道ニ竝テ、胸内ニ下リ。歧レテ兩肺ニ入ル。上口ハ、軟骨ニテ管ヲナシ。會厭トナル。其上口ヨリ肺ニ属スル處ニテ、管ノ長ケ、凡、九寸許リ。飲食スル毎ニ、喉嚨ノ屈伸スル機巧ハ言語ノヨク詳カニスベキ所ニアラス。其形チ恰モ、龍蛇ノ跣ノ如シ。故ニ喉嚨ノ名アルカ。本草云、肺ハ熱則管索成、一ニ云、其

其質ハ、二十重ノ軟骨ナリ。薄膜ニテ繋之。經曰、喉嚨者、氣之所以上下者也。

咽部

ジキミチ

咽ハ、飲食ノ道路ナリ。其質ハ、厚キ膜ヲ以テ、嚢状ヲナス。其長チ、凡、一尺一寸許。經曰、咽門至胃一尺六寸。按スルニ今ノ一尺一寸餘咽ノ上口ハ、口ノ真ニ起リ。喉嚨ニ竝ビ下リテ、横隔膜ヲ貫キ、胃ノ上口ニ接ス。經曰、咽者、水穀之道也。憂患無言論

咽道ハ、喉嚨ノ後ニシテ、其上口ハ、喉ト  
竝ヒアレ、水穀ノ喉竅ニ漏レ入ラザ  
ルハ、喉上ニ會蹙アルユヘナラム。氣道  
食道ノ機巧ハ、其妙ナルヲ目之不可視。  
口之不可言。モノナリ。咽喉ノ二管ハ、寔  
ニ身中ノ大管ナリ。而シテ、喉ハ氣ヲ主  
トリ、咽ハ食ヲ主ル。咽ノ食ヲ主ルト雖  
氏。氣亦是ニ關ラザルヲナシ。咽喉ハ、兩  
氣相伴テ互ニ主客トナリテ、一出、一入

ノ理ハナカルベシ。人ノ飲食咽管ニ  
シテ忽チ死スルモノアリ。蓋五臟六府。  
一身毛髮ニ至ル迄、氣ノ往還セサル處  
ナシ。其氣若窒塞スル氏ハ、忽チ枯レ萎  
ム。況ヤ咽喉ノ如キ。大管呼吸ニ係ルモ  
ノヲヤ。人飲食セント欲スル時、恃ニ慎  
ミヨ加フベキナリ。  
胸部ハ、體之中央ニ以、肋骨爲其形。胸内ノ

中央ニ豎膜アリ。膈膜以上ヲ豎サマニ  
隔断スルモノナリ。肋骨各十二枚。左右  
合テ廿四枚ナリ。其根本ハ、脊椎ニ生シ  
テ。左右ニ關キ爲條。勾曲シテ抱脇終接  
胸骨。條骨十二枚ノ内。一枚。根本脊椎ニ  
生シテ。向前脇下ニ終ルモノアリ。所謂  
季肋骨ナリ。此處横隔膜ノ端ニシテ。亦  
章門ノ穴此ニアタル。胸之爲骨。胸骨。欽  
盆骨。肋骨。季肋骨ナリ。兩乳ハ。胸ノ中央

中ノ十

ノ兩傍ニ属ク。兩乳ノ間。凡ハ八寸。ニ聖

肺部

肺ハ左右ニ大葉ニシテ胸内ニ懸リ。其  
中間ニ有縦膜隔之。左右各環アリ。心ノ  
藏ヲ其間ニ擁ク。肺ハ肉塊ニアラズ。又  
空キ膜囊ニモアラズ。氣血ノ囊ナリ。其  
形如蜂窠。又似絲瓜。氣血ノ通孔。無數ニ  
シテ至テ細シ。此無數ノ孔ノ聚リタル  
ガ卽子肺ノ質ナリ。氣入レハ。張然ト肥

中ノ十

へ。氣出レハ茶然ト瘦ルナリ。氣道ヨリ  
 吹テ驗レハ能ク知レルナリ。茶ハ尼葉切音聶  
 疲萎貌ナリ  
 肺ノ官ハ呼吸ノ氣ヲ出納シ。風氣ヲ以  
 テ血ヲ淘汰澄清スルヲ主トスルナラ  
 ン。故ニ肺ハ氣血ノ行家ナリ。橐籥ナリ。  
 周身ノ濁血之ヲ絡脈ニ流入シテ。心ノ  
 右室ニ納メ。遂ニ肺ノ兩室ニ來ラシ。之  
 ヲ淘汰シ。之ヲ澄清シテ。又心ノ左室ニ  
 送ル。是ヨリ大經脈ニ入テ。周身ニ運送

スルヲラシ。其説心ノ部ニ詳ナリ。

肺ト心ト通スルニ大脈アリ。肺經脈。肺  
 絡脈ト稱スヘシ。

一ハ心ノ右室ヨリ。肺ニ入ル。所謂肺絡  
 脈ナリ。分レテ無數トナリ。肺囊ニ榮絡

ス。肺絡脈モ兩股ニナリテ。兩肺ニ入ル  
 ナリ。

一ハ兩肺ヨリ出テ會シテ。心ノ左室ニ  
 往ク。是所謂肺經脈ナリ。

肺經肺絡ノ稱蘭説ト及  
 余ハ澄モノヲ為經濁モノ

ヲ為路ノ氣道ノ管ハ岐レテ兩肺ニ属スル  
ハカリナリ。外ヘノ支延ナレ。故ニ氣ハ  
肺ヨリ出ルナリ。然レ氣ニ兩様アリ。呼  
吸。言語。歌哭ハ肺ヲ主トシテ。氣管ヨリ  
出ルナルヘシ。噓噫喘咳ハ胃ヲ主トシ  
テ。食道ヨリ出ルナラン。兩氣相伴テ互  
ニ主客トナルヤウニハ見ユレ也。一出  
一入ノ理ハナキヤウナリ。譬ハ飲酒啖  
辛ノ人。言語ニモ臭氣アレ也。噓噫ノ甚

レキニ如ズ。是言語ノトキハ。氣道主ニ  
ナリテ。食道客トナリ。噓噫ノ成ハ。食道  
主ニナリテ。氣道客トナル故ナリ。痰ハ  
食道ヲ經テ腸胃ニ上下シ。氣道ヘハ力  
ハラヌモノナルベシ。真ノ吐血ハ。氣道  
ヨリ出シ。是必心肺ノ病ナリ。痰血。咳血。  
唾血ハ。食道ニ係ル。是多ハ腸胃ノ病ナ  
リ。咳レテ吐水飲吐痰血モノニハ。飯羹  
及ヒ蛔虫等雜リ出ルヲ間コレアリ。心



肺ノ吐血ハ、鮮血及ビ凝血ノ之出テ、飲  
 食ノモノ出ルヲ曾テナシ、以之心肺ノ  
 血ト腸胃ノ血トノ、差別ヲ略知ルベシ。  
 又咳ノ証ハ、真ノ吐血ニモナシト言フ  
 べカラス。但咳ノ狀異ナルノ之、真ノ吐  
 血ノ咳ハ、常ニ咳セズ、血出ントスル  
 時ニ臨テ頻ニ咳ス。蓋シ氣道下血ノ滲  
 ヲ以テ、噎ヒ咳スルナリ。是血カ主症ニ  
 テ咳ハ客ナリ。咳血痰血ノ類ハ、咳ガ常

ニナリテ、血ハ魚証ナリ。咳ニツレテ折  
 々出ルナリ。是咳ガ主症ニテ血ハ客ナ  
 リ又衄血ハ、知リ易キヤウナリ。頭腦ノ  
 經絡脈ヨリ出ツ、鼻ヲ塞バ、口中ニ出ル  
 モノハ、口鼻、モトヨリ通穴アリテ、溢送  
 スルユヘナリ

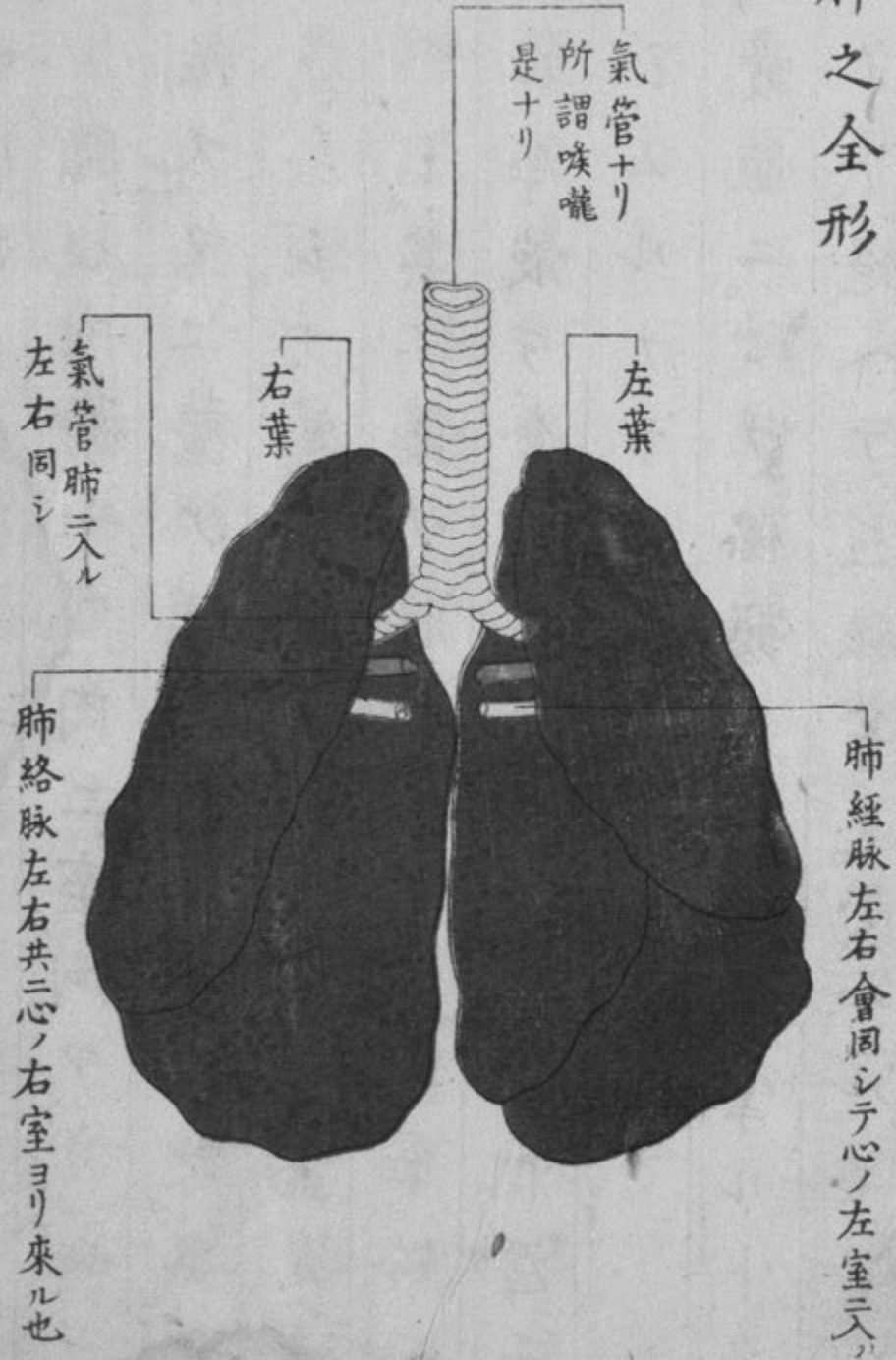
肺囊ニ、榮絡スル無數ノ細脈ハ、死メ間  
 ナキモノハ、其色紅ナリ。死テ間アレバ  
 殷色ニ變ス。肺囊ヲ吹テ之ヲ滿脹セシ

ムレバ。一遍ニ紅色アリ。コレ全ク氣血ヲ含藏スルユヘナルベシ。

解體新書曰肺動脈是通心右方使血  
注<sub>二</sub>入肺<sub>一</sub>其血脈是使從<sub>二</sub>心右方<sub>一</sub>所受之  
血<sub>一</sub>入<sub>二</sub>心左方<sub>一</sub>也。肺於是乎養焉。又曰肺  
管之動脈及血脈者皆以養肺云云  
此說誤レルニ似タリ。肺ノ動靜ニ脈ハ  
濁血ヲ來ラレ。コレヲ澄清シテ以テ心  
ノ左室ニ輸ルノ管ニシテ養肺ト云べ

カラズ。蓋五臟六腑。四支九竅。肌膚爪髮。  
ニ至ルマテ。心ノ大經脈ノ氣血ヲ輸テ  
以テ不養ハナシ。豈獨リ肺ノミ別ニ經  
絡ニ大脈アリテ。之ヲ養フナランヤ。且  
フ心ノ右室ヨリ來ル血ハ。ミナ勞血濁  
血ノヤウニ見ユ。豈勞血濁血ニシテ。物  
ヲ養培スルヲ得ルヲアランヤ。故ニ龍  
ヲ以テ之ヲ觀ルニ。右ノ通り勞血濁血  
ナルガ故ニ。肺ノ風氣ヲ以テ。コレヲ澄

肺之全形



中ノ十八

清甦活セシメテ。心ノ左室ニ輸リ。ソレヨリ。周身へ輸ルヤウナリ。新書既曰。心之動脈者。從心之左方起。支別則蔓延一身也。其幹下行者肺管脈。從此別而養肺。新書大動脈篇此說甚々然リ。然ラバ則今前説語意錯乱ス。恐ラクハ誤リナラシ。

中ノ十七

心臓部 附心胞絡

心ノ臓ハ肉塊ナリ。内ニ空洞アリ。血ヲ  
 滄注ス。又ニ襲ノ膜囊アツテ裏之。其膜  
 白色ニシテ光澤アリ。所謂心胞絡是ナ  
 ルベシ。其二襲ノ膜ト。膜トノ間ニ。玲瓏  
 タル淨液ヲ含ム。此ヲ以テ心ヲ潤澤ナ  
 ラシムルナラン。  
 此囊恒ニ。心ヲ保護スルヲ掌ルト見  
 ヘタリ。絶ヘテ血脈等ノ繋ヘルモノモ

ナシ。唯潔白ノ膜囊ナリ。是又心包膜ト

稱シテ可ナラン。請本口蓋蓋ヤハ。心

心ノ全形。上ニ圓大ニシテ下モ小ナリ。譬

ハ齒ノ齒ヲ倒ニ懸ルガ如シ。胸内ニア

ワテ。兩肺ニ擁ヒ。膜ヲ以テ肺ニ著キ。下

ノ尖以左ニ向ヒ。左乳下ニ相當ル。此處

即チ虚里ノ動ナリ。心尖撞動ナルベシ。

心ノ正頭ノ左右ニ。耳ノ如キモノ各一

ツアリ。心ノ經脈絡脈ノ根ヲ擁カ如シ。

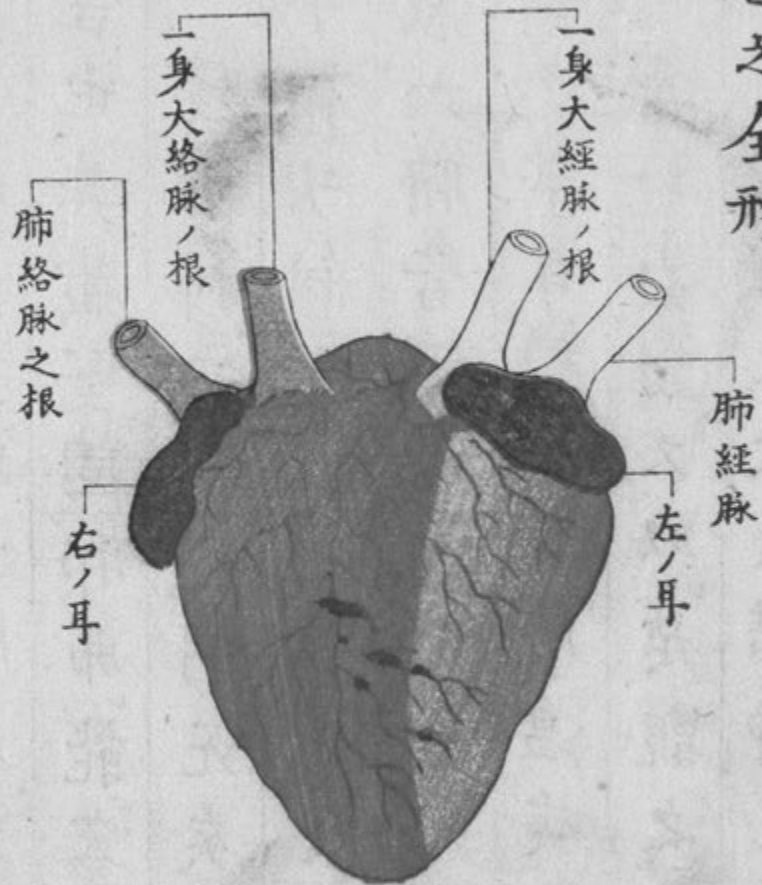
其耳ノ動キ无健ナリ。心ノ體モ耳ノ一  
同ニ動ス。死ニテ呼吸絶レバ。即チ  
止ム。其耳ハ呼吸絶テモ暫ハ動クモノ  
ナリ。凡朝辰刻刑セラル。屍ヲ取テ未  
シ刻。剖テ視之。其搖動猶生時就中ニモ  
強ク動クモアリ。又微搖スルモアリ  
リ。或ハ不動モアリ。其木ノ生質  
因テ氣ノ其體ヲ離テ遲速アルカ。  
心ノ上頭ニ四ツノ大脈アリ。其一經

脈大幹ニシテ心ノ左室ヨリ出テ岐レ  
テ周身ニ往ク。其幹心ヲ出テ少シ。止行  
シ。數支ト爲テ。頭腦ニ往クモアリ。又  
左右ニ支別シテ。腕腕ニ往クモアリ。  
又脊椎ニ傍テ。下行シ。臍底ニテ岐ヲ成  
シ。左右股脚ニ走ルモアリ。其ハ絡  
脈大幹。周身ヨリ復會シテ。心ノ右室ニ  
入ル。其一ハ肺絡脈。心ノ右室ヨリ出テ。  
岐ヲ成シテ。兩肺ニ入ル。其一至肺經脈

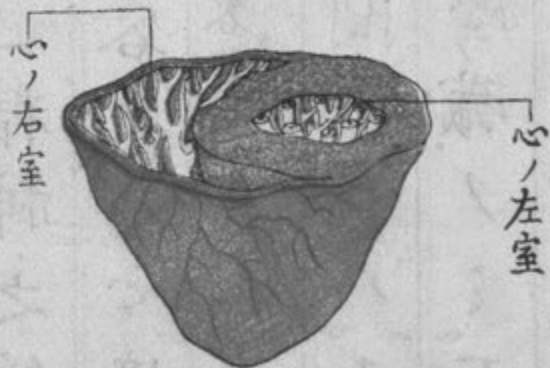


豈堪感嘆哉。

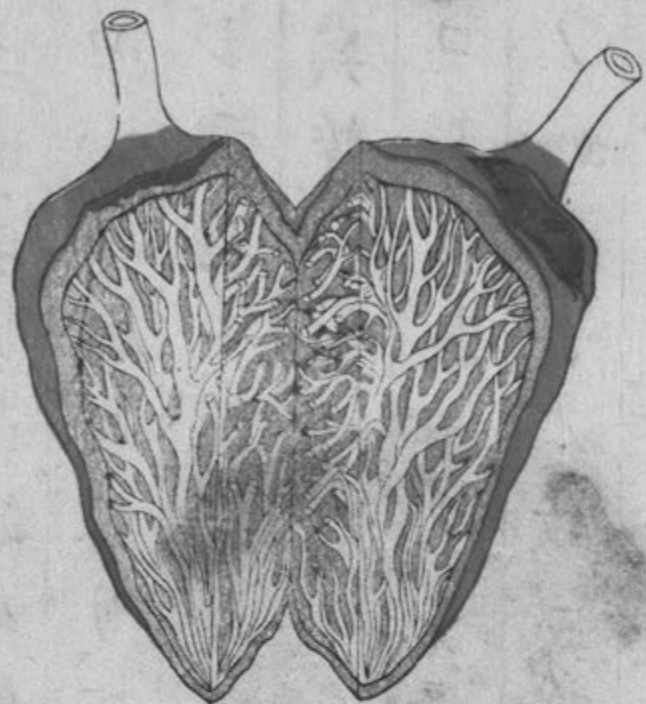
心之全形



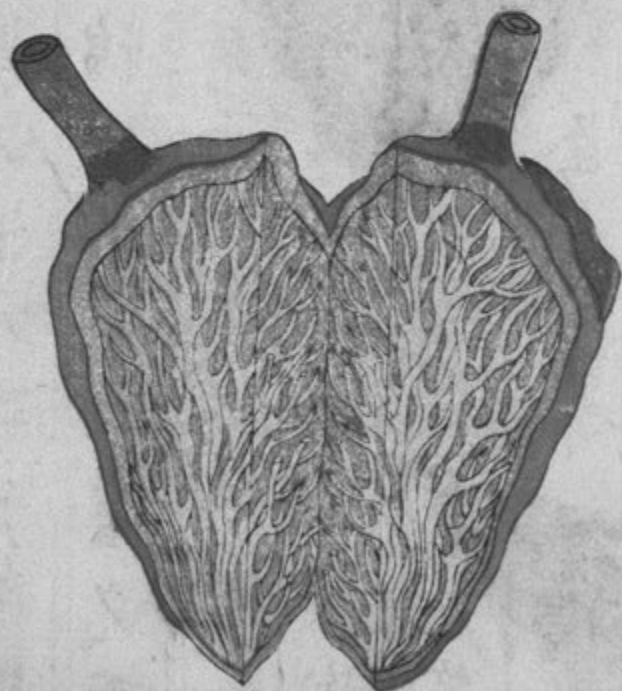
心ヲ横断シテ  
内面ヲ見ル



心之左室ヲ縦断シテ内面ヲ  
見ル



心之右室ヲ縦断ス



膈膜部

膈ハ膈也  
膜ハ幕也

上膈膜ノ上端ハ、胸骨ノ下端ニ属シ。後  
口ハ季助ニ依リ、下端ハ腰膈ニ著ク。而  
シテ胸ト、腹トヲ隔断スルモノナリ。  
其質ハ、厚キ膜ニシテ、脾胃肝膽ノ四藏、  
コレヲ戴テアリ、其状タトヘハ深キ笠  
ノ如シ。コノ故ニ、肝ハ全ク、助下ニ隠レ、  
胃モ三半ホドハ、助下ニ隠ル、ナリ。又  
膈膜ニ、二個ノ圓竅アリ、其一ハ食指ヲ

イル、ホドノ大サニシテ、右ノ前ニア  
リ。是絡幹ノ貫穿スル所ナリ。其一ハ錢  
ノ大サニシテ、左ノ後口ニアリ。是食道  
ノ通穿スルトコロナリ。思ヘテ、  
經曰膈有上下官能篇按スルニ上膈膜、  
下膈膜ヲ云ナルベシ。下膈膜詳  
于下卷此ノ膜ハ  
即チ上膈膜ナリ。此ノ膜ニ襲ニシテ、胸  
ト腹トヲ隔断ス。身中々々大膜ナリ、亦膜  
原氏イフ。是亦常ニ呼吸ニ隨テ低昂ス



ルナラズ。蓋シ此人干襲人膜間ニ水氣  
 ヲ含ムモノ也。亦風氣ヲ含ムモノ也。又  
 リ。是亦解剖ノ片間々見ル所ナリ。又留  
 飲家ト稱スル者。膈間ノ水氣間々多シ。  
 然ルニ。實物ヲ觀ザル者ハ。水飲ハ夕  
 腸胃中ニノミアル様ニ思ヘ。左ニア  
 ラズ。膈膜間ニアル者多シ。論所謂膈間  
 支飲是ナリ。飲論金匱ニ詳ナリ。其一ハ  
 經曰邪氣内薄五藏横連膜原也云云。按

スルニ。吳又可ノ所著温疫論モ亦此ニ

本ツキタルナラシ。蓋シ達原飲ニ消飲

等ノ方意。及ビ効驗最モ可賞嘆ナリ。

脾部

和名アマキモ 亦ムラサキモ

脾臓ハ肉塊ナリ。皺文アリ。内ニ孔穴ナ

シ。其形ハ牛舌ノ如クニシテ。紫赤色ナ

リ。上頭ハ凸ニシテ。下ハ凹ナリ。外面ハ

平ニシテ。ムツクリトシ。裏面ハ襞アリ。

左ノ脇肋内ニ位シ。胃ノ後ニ在テ。脈ト

膜ト以テ。親ク胃ニ係屬ス。或テ細ク  
 經曰脾、與胃以膜相連。又東面ハ  
 又曰脾主爲胃行其津液者也。其西ハ  
 又曰脾、以灌四傍。又西ハ  
 今斯古經ノ數語ニ因リ。實物ニ就テ之  
 ヲ察スルニ。脾ハ脂ヲ生スルモノナラ  
 ン。勿論胃氣ヲ受レテ。管竅ノ路運ナシ。  
 又脂肪ハ。脾下ニ緊着シテ。四邊ニ溢ル  
 ヲヤウナリ。所謂脂肪ハ。淡黃色ニシテ

泡ノ如ク。細脈交リテ。横ニ繞テ。胃ヲ擁  
 シ下ニ分レテ。腸間ニ縈廻ス。

脾之全形



脾ノ上頭

此邊膜ヲ以テ胃ニ屬ク

此邊胃ノ下端ニアラハレ小腸ニ交ル

胃部

一名大倉 亦エブクロ氏云

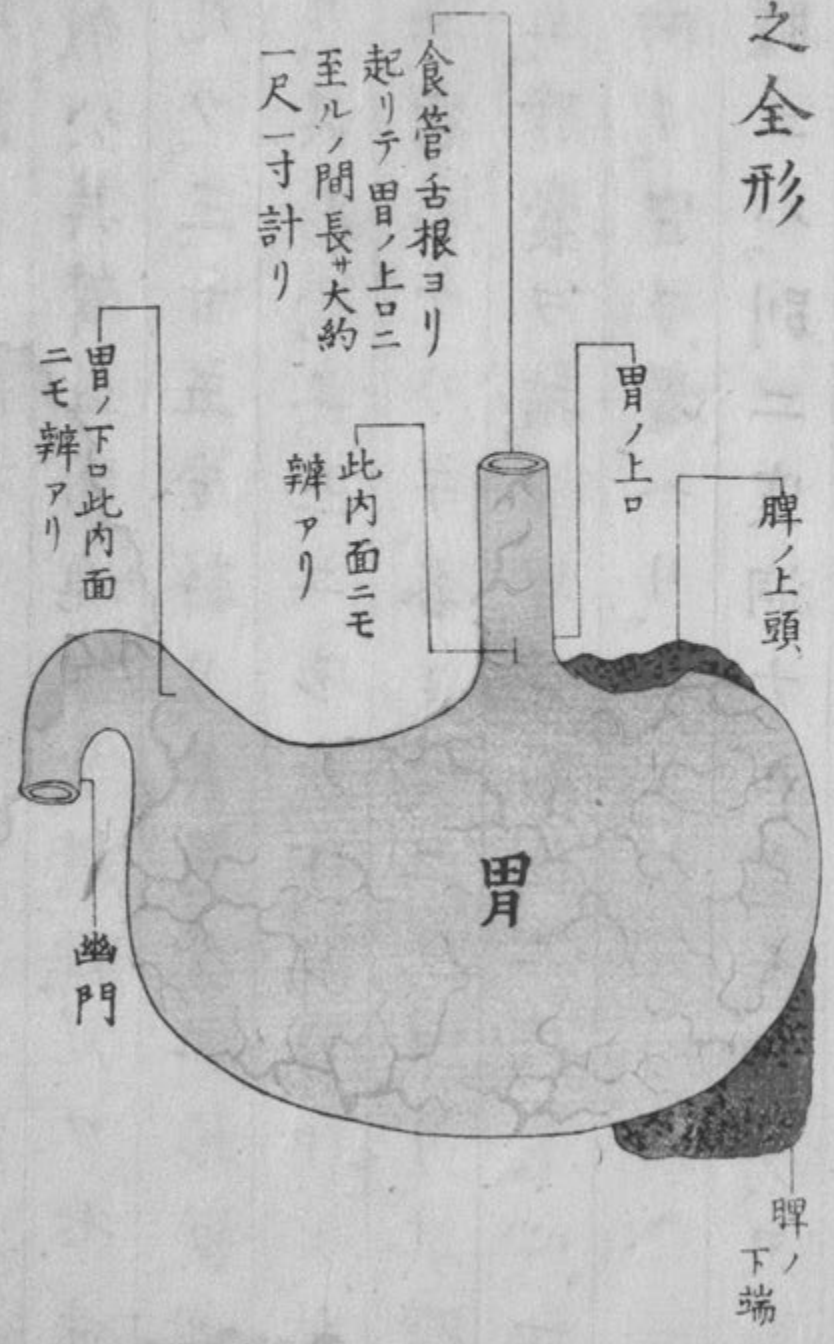
胃腑ハ、心下ニアタリ、横膈膜ノ下ニ、横  
 タハル。横膈膜ヲ戴キテ、三半ハ助内ニ  
 隠ル。其形ハ、圓ニシテ、左右ニ長ク、左ハ  
 較闊ク、右ハ少シ、窄リ、上リ曲リテ、小腸  
 ノ幽門ニ接ス。幽門詳ナキ  
干腸部ニ其上口ハ、食道ニ  
 連リ、心下ノ左ニアリ、下口ハ、幽門ニ接  
 シテ、心下ノ右ニアリ、其質ハ厚キ膜ノ  
 囊ニシテ、薄鼠色ナリ其囊闊大ニシテ、

厚強ナリ、豹蹙ノ茄袋ニ彷彿タリ、其裡  
 面ハ稍灰色ヲ帯ヘリ、囊裡ハ許多ノ皺  
 襞アリ、蓋シ穀物ヲ調化シ、之ヲ幽門ニ  
 輸クルナラシ、亦胃腸内、裡面ハ、皆皺襞  
 片々、纒々、牛ノ口中ノ如シ、牛ハ物ヲ食  
 シ、已テ久シテ、復口中ニ出シテ、嚙之、此  
 ヲ齧ト謂フ、人ハ口中ニテ咀嚼シ、一夕  
 ビ咽下シテハ、再ヒ出スヲナシ、其人ノ  
 動作ニ隨テ、胃腸共ニ屈伸シテ、即チ、牛

ノ 齧ノ如シ。但牛ハ。閑ニ乘テ。之ヲ嚙化ス。人ハ動作ニ應シテ調化ス。人々皆知ル所ナリ。常ニ此理ヲ會得シテ。飲食ヲ恣ニセズ。酒食ノ度ヲ節ニシ。務メテ。自ラ動作スレバ。胃腸健ニシテ。體モ安シ。經曰胃水穀之海。六府之大源也。五藏別論胃ノ上口ノ處ニ。辨アリ。下口ノ處ニモ。亦辨アリ。是皆飲食ノ出納ヲ節スル力。經ニ。上管。下管ト稱スルハ。此處ヲ言フ

ナラシ。

胃之全形



肝部

クロキモ

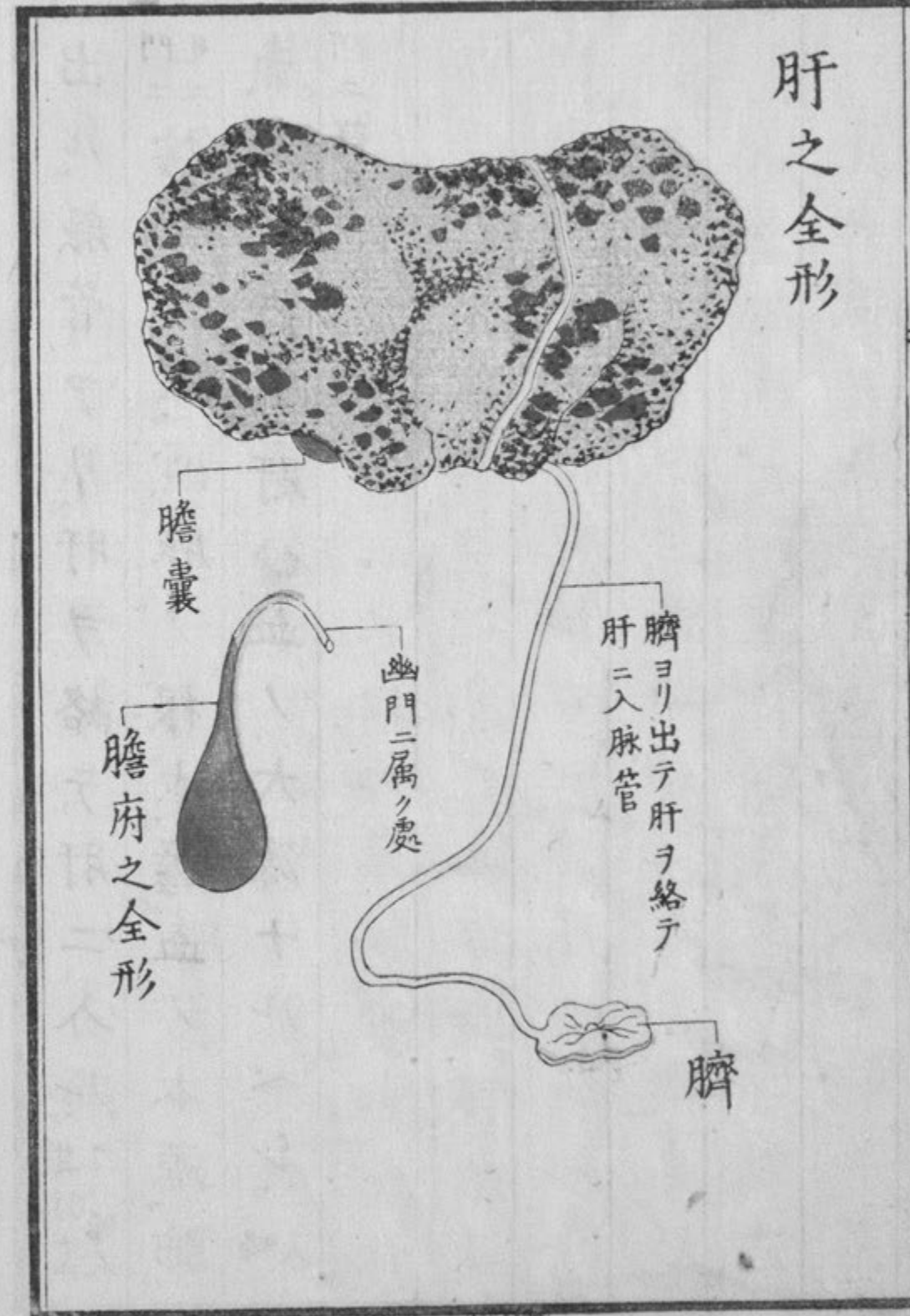
肝藏ハ。其質血肉塊ナリ。横徑。凡ソ七寸。縦凡ソ。三寸五分許リ。其色紫ニシテ殷ナリ。其形ハ。上、凸ニシテ。下、昂低アリ。前後兩葉二十リテ。各々襞二三アリ。其襞間ニ。膽囊ヲ攤テ。胃ノ右側ニ傍ヒ。心下ニ向テ。胃ヲ覆ヘリ。此臟ニハ。別ニ空洞ナル處モナク。只一塊ノ血肉ナリ。其所在ハ。膈膜ノ下。胃ノ

右側ニ傍テ。絡脈大幹ヲ抱キタリ。以ノ肉塊中。オノヅカラ。血ヲ含蓄ス。死立間十ケレバ。其色鮮ナリ。又時日ヲ経レバ。殷黒ニ變ズ。色鮮ナル時ハ。其氣ヤカクナル下恰モ。熟柿ノ如シ。之ヲ扱ハ。血出ル。蓋シ肝ニ含ムトコロノ血ハ。本胆汁ヲ融化スル所ナリ。モト膽ノ苦汁。肝ニ徙リ。肝ノ酸味ヲ得テ。而シテ預血トナリ。絡脈大幹ニ入テ。周身ヨリ。還復スル所ノ滓

血ト共ニ心ノ右室ニ入り之ヲ肺ニ輸  
リ。肺ノ風氣ヲ以テ澄清シ之ヲ心ノ左  
室ニ輸リ夫ヨリ大經脈ニ入テ周身ヲ  
培養スルナラン故ニ曰ク肝ハ血ノ大  
源ナルベシ。經曰肝藏血血舍魂肝氣虛  
則恐實則怒。本神篇又曰心藏神肺藏氣肝  
藏血脾藏肉腎藏志。調經論肝ノ後面ハ膜  
ヲ以テ胃ニ附キ許多ノ微細ナル血脈  
アリテ其心肺ニ繋絡ス又一条臍ヨリ

出ル。脈管アリ肝ヲ絡テ肝ニ入ル。其詳ナル  
トハ婦人  
門ニ按ズルニ心脈ノ根本膽血ノ本源肺  
氣血ノ行家肝ハ血ノ大源ナルベシ。婦  
人  
門ニ詳ニス

肝之全形



膽部

和名イニガタマニガフクロ云

膽府ハ其質厚キ膜囊ニテ長大約五六寸許リ其形狀ハ熊膽魚膽ニ異ナラズ内ニ苦汁ヲ蓄テ青黃色ナリ其所在ハ膜ヲ以テ肝藏ノ襞間ニ緊著シ其囊底膽汁溜リテ豊満ナル處ハ下垂シテ肝外ニアラハレ出ヅ其上端ノ細キ處ハ勾屈シテ小腸ノ幽門ニ属ス蓋シ飲食ノ精粹苦烈ナルモノ上テ膽囊ニ聚リ

融化シテ、肝ニ入テ、血トナシ、此ヲ養フ。故  
 二、膽ハ肝血ノ本源ナルベシ。詳説見於婦人門  
 按スルニ、人ノ勇怯ハ、膽汁ノ虚實ニ係  
 ルベシ。經曰善嘔嘔有苦、長大息、心中膽  
 恐、人將捕之、邪在膽、逆在胃、膽液泄、則  
 口苦。胃氣逆則嘔苦。故曰嘔膽。云云 四時氣論  
 又曰、膽盛精汁三合、經曰膽者、中正之官、  
 決斷出焉。靈蘭秘典論 又曰、凡十是藏取決於  
 膽也。六節 藏象論 又蠻説ヲ按スルニ、膽汁ノ

慄悍ナル氣ヲ、十二指腸ニ注テ、飲食ヲ  
 克殺、糜爛シ、化熟スルヲ掌ルト云云。

十二指腸ハ、函門ヲ云  
 則小腸ノ上ロナリ

按ズルニ、膽府ニ、未ダ勇怯

ノ談ニ及ブモノヲ見ズ。余モトヨリ、蟹

行字ヲ學バズ、故ニ我目、イマダソノ書

ニ涉ラザルカ、盖シ勇怯思慮及ビ、七情

ノ膽府ニ関カルノ義、最モ無ンバアル

ベカラザルヲナリ。五和ハ、増食ニ

又按ズルニ、膽ノ苦汁ハ、小腸ヨリ受テ



少所ノモズ。十二指腸ニ送ルト云ベカラズ。モトヨリ五味ハ飲食ニアル所ノモズナリ。飲食ノ氣味。腸胃ヨリ來ラズシテ。何レヨリ來ラズ。尤其味ヒ苦烈ナリト云。此。獨リ膽汁ノミ。飲食ヲ化熟スルモノト云ヘカラズ。龍ヲ以テ。之ヲ觀レバ。飲食ヲ克殺糜爛セシメ。化熟セシムルモ。又ハ。焦氣ナルベシ。焦氣ハ火氣ナリ。即チ三焦ヲ陽氣ト云。而

レテ。上焦ハ。膈膜以上。專ラ心肺及ヒ上部ヲ掌トリ。中焦ハ。膈膜以下。專ラ胃腸及ヒ中部ヲ掌トリ。下焦ハ。下膈膜以下。專ラ大腸。膀胱。及下部ヲ掌ドルベシ。蓋シ。膽ノ苦汁ハ。飲食精粹酷烈ナルモノノ成ル所ニシテ。血ノモトヲナルベシ。是即チ。膽汁ノ最モ貴キ所ナリ。腎ニ出

腎部

腎ハ。其質肉塊ナリ。中ニ空竅アリ。

其形狀如蚕豆ノ如ニシテ。紫黑色ナリ。  
十四推ノ兩傍ニアリ。前ハ臍ニ對ス。又  
微細ノ血脈アリテ。經絡ハ二大脈ニ出  
入ス。又薄膜ニテ腎ヲ包ミ其膜ハ腎ノ  
下邊ニテ拈合テ。絡トナリ。下ヲテ鞏丸  
ニ屬ス。蓋  
兩腎ヨリ。各々一條ノ尿管アリ。并々テ  
膀胱ノ上頭ノ兩側ニ屬ス。是即チ尿管  
ナリ。其太サ琴絃ノ如ク。白色ニシテ。長

サ大約一尺許リ。

龍按ル二古書未見言小澗通利路逕者。

近時解體家始見尿管之從腎通膀胱者。

固可謂解體者流之一大功矣。但古人不

言之者。豈不知之乎。將知而不言及此乎。

抑亦言而失其傳歟。然經曰。腎者主水。又

曰。腎合膀胱。膀胱者津液之府也。本輸論史

記曰。濡腎注濡。溺也。以此攷之。腎者主水之藏

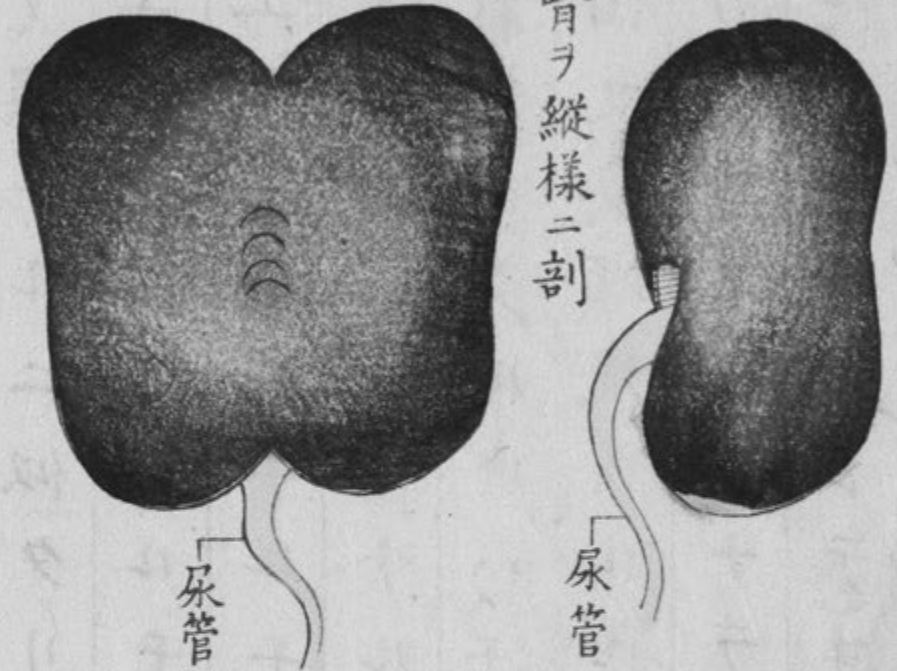
而尿亦關焉。所以爲濡腎也。

經曰。腎者津液之府也。因之ヲ實物ニ  
驗ルニ。津液トナルモノハ。皆腎ニ湊會  
シテ。夫ヨリ液ハ諸ノ液脈ニ入リ。津ハ  
諸ノ水脈ニ入ルヤウニ見ユ。滓ハ尿管  
ニ入テ膀胱ニ出ヅ。蓋シ津液中ノ純粹  
ナルモノ所謂腎精也。是ヲ腎水氏云フ。  
元ヨリ腎ノ官スルトコロナリ。然ルニ。  
解體家ハ。尿道ノ腎ヨリ出ルヲ見テ以  
テ腎ハ。專ラ尿ヲ主ルノ藏トスル者ア

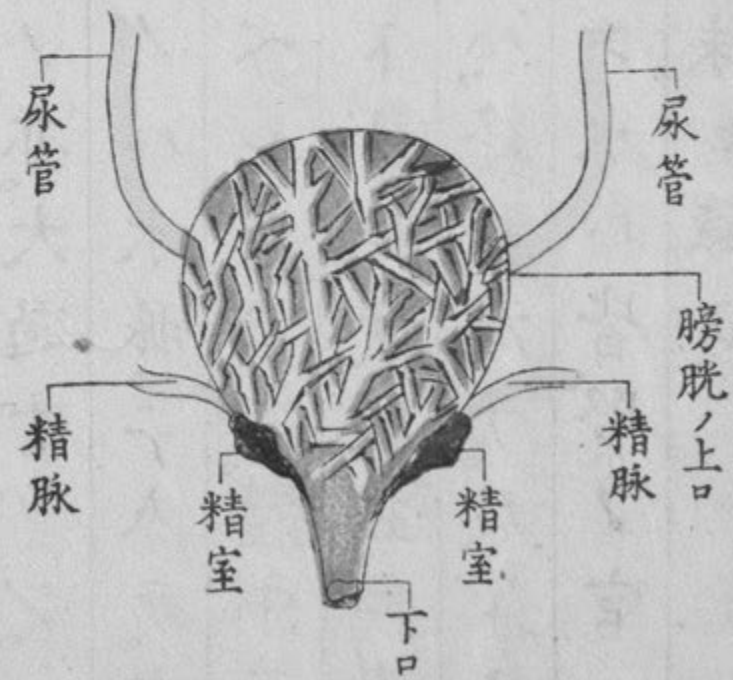
リ。誤レルニ似タリ。又古人所謂腎虛ノ  
字面ヲ誹謗スルモノ亦。大過ナラン。  
上ニ所謂津ナルモノハ。水脈ニ入テ。周  
身ヲ流注スルナルベシ。若其人。體中蒸  
氣氤氳タルキハ。汗トナリテ。腠理ニ發  
出ス。又順流スルキハ。終ニ流テ。尿トナ  
リ。膀胱ニ送ルナラン。水ハ皆腎ノ官ス  
ル。トコロニシテ。其味ヒ鹹シ。

腎之全形

腎ヲ縦様ニ剖



膀胱之全形



膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部 膀胱部

膀胱ハ尿管ナリ。其質ハ三襲ノ膜囊ニ

シテ、強韌ナリ。其形ハ、サカサカ倒ニシタル

カ如シ。上ハ圓大ニシテ、下ハ窄小ナリ。

其端漸ク細クナリ。竟ニ尿管トナル。所

在ハ、臍下横骨ノ内ニアリ。上口ハ、腎ヨ

リ傳フ。尿管ノ附属スル處ナリ。其下口

ハ、直下ニアリ。即チ尿管ヲ送ルトコロノ

孔ナリ。膀胱ハ、尿管ノ伸張シ、囊中

空十儿寸。綫縮及水ヲ入テ驗レハ。其  
様子能ク知レ。此ナリ。一説曰。膀胱有下口。無上口。是亦不履實  
地。而謾爲之説者。不足取而已。蓋尿管從  
兩腎出。以屬膀胱。其字面雖不載。古經。視  
其實物。則莫可容疑焉者矣。龍未。實物ヲ  
不視。片竊二尿道ノ下ヲ疑フ。既ニ解屍  
シテ。管アルヲ見レ。片猶蒙ク夕見。而シ  
テ後。再三解體シ。或ハ切テ驗之。或ハ剖

テ。之ヲ視ルニ。腎ヨリ繫キタル。管中及  
ビ膀胱中へ。尿汁多ク滴レハ。囊亦伸張  
シ。又尿汁去リ盡レハ。管囊凡ニ綫縮ス。  
於。是積年之疑。渙然氷釋。如披雲霧。因テ  
シバラク其下ヲ記シテ後。徵トス。

又膀胱以下。尿ノ管。男子ハ長フシテ曲  
リ。屢ヲ經テ。陰莖ニ出ツ。婦人ハ。膀胱ノ  
下口ヨリ。直ニ陰門ニ出ル。故ニ。其管短  
シ。今蘭製二葛的英的兒卜。稱スルモノ



